

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気理論		英文名	Electric Theory			学科科目 番号	1-1
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期： 6 時間（回数：15 回）		後期： 4 時間（回数：15 回）			授業時数	150 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト 改訂 18 版（電気書院）、第一種電気工事士筆記試験の徹底マスター 改訂 2 版（オーム社）							
担当者の 実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 電気工学の基礎である電気回路、電流と磁気、静電気、交流の性質、交流回路、ひずみ波交流、過渡現象について理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1	電気計算①			1	ビオサバールの法則			
2	電気計算②			2	アンペア周回路			
3	電気計算③			3	磁気回路			
4	抵抗の接続			4	電磁力			
5	オームの法則			5	電磁誘導回路			
6	電気抵抗の計算			6	静電気の性質			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	分流と分圧			8	静電容量とコンデンサ			
9	キルヒホッフの法則			9	直流と交流			
10	導体材料の性質			10	正弦波交流の表現			
11	電流の発熱作用			11	ベクトル表示の計算			
12	ジュールの法則			12	正弦波交流の基本			
13	磁界と磁束			13	三相交流の性質			
14	クーロンの法則			14	結線方法と計算			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		教科書を基に、演習問題やプリント、電気工事士の過去問題等を多く取り入れながら行う。						
到達目標		電気における各種の法則や公式を理解して計算ができること。						
成績評価の 方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50% ・随時行う小テスト：20% ・授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	配線図		英文名	Wiring diagram			学科科目 番号	1-2
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期： 2 時間（ 回数：15 回 ）		後期： 3 時間（ 回数：15 回 ）			授業時数	75 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第二種電気工事士筆記試験模範解答集 2025 年版（電気書院）							
担当者の実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 電気工事士として必要な、日本工業規格に基づく電気製図に関する基礎的な知識や技術を習得し、製作図・設計図を正しく読み解き、図面を構想し作成することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	配線材料の学習			1	屋内配線図用の図記号（1）			
2	練習問題			2	屋内配線図用の図記号（2）			
3	電線の記号と種類			3	屋内配線図用の図記号（3）			
4	練習問題			4	屋内配線図用の図記号（4）			
5	スイッチの種類			5	複線図と配線条数			
6	練習問題			6	低圧引込線の施設			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	コンセントの種類			8	低圧屋側電線路の施設			
9	練習問題			9	引込口における開閉器の施設			
10	コンセントの形状			10	電路の絶縁抵抗			
11	練習問題			11	電路の接地工事			
12	配管の記号と種類			12	小勢力回路			
13	練習問題			13	鑑別			
14	新配線図の学習			14	材料選別			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		教科書を基に、演習問題やプリント等を取り入れながら行う。						
到達目標		電気配線図におけるシンボルを覚え、電気工事に必要な配線図を理解して作図することができること。						
成績評価の方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	機器工具		英文名	Equipment tool				学科科目 番号	1-3
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	通年	前期： 4 時間（回数：15 回）		後期： 5 時間（回数：15 回）			授業 時数	135 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト 改訂 18 版（電気書院）、第一種電気工事士筆記試験の徹底マスター 改訂 2 版（オーム社）								
担当者の 実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理								
【学修内容】科目のねらい（目的） 電気工事士として必要な、日本工業規格に基づく電気製図に関する基礎的な知識や技術を習得し、製作図・設計図を正しく読み解き、図面を構想し作成することを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）				
1	三相交流（1）			1	3 路スイッチ回路				
2	三相交流（2）			2	4 路スイッチ回路				
3	三相誘導電動機の原理			3	電気工事と工具				
4	三相誘導電動機の始動法			4	ケーブル工事の材料と工具				
5	Y－△始動器、速度制御			5	金属管工事の材料と工具				
6	三相誘導電動機の始動トルク			6	合成樹脂管工事の材料と工具				
7	前期中間試験			7	後期中間試験				
8	まとめ（1）			8	まとめ（1）				
9	まとめ（2）			9	まとめ（2）				
10	蛍光灯と照明器具			10	変圧器の原理と構造				
11	放電ランプについて			11	変圧器の定格と特性				
12	ネオン放電灯工事			12	変圧器の結線と出力				
13	特殊機器			13	変圧器の損出と効率				
14	まとめ			14	まとめ				
15	前期期末試験			15	学年末試験				
授業方法 （授業の進め方）		教科書を基に、演習問題やプリント、電気工事士の過去問題等を多く取り入れながら行う。							
到達目標		電気工事士として必要な機械と工具の使用方法を理解し、工事現場にその知識が応用できること。							
成績評価の 方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50% ・随時行う小テスト：20% ・授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。							

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	検査方法		英文名	Electrical testing methods			学科科目 番号	1-4
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期： 2 時間（回数:15 回）		後期： 時間（回数： 回）			授業時数	30 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト 改訂 18 版(電気書院)、第一種電気工事士筆記試験の徹底マスター 改訂 2 版(オーム社)							
担当者の 実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 電気工作物の維持・管理を行うために必要な、各種の検査方法や測定器の取り扱い方法について理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1	電気工作物の検査、測定器の種類			1				
2	導通試験			2				
3	絶縁抵抗測定、接地抵抗測定			3				
4	その他の測定器			4				
5	力率の測定			5				
6	分流器			6				
7	前期中間試験			7				
8	電気計器			8				
9	電圧・電流の測定			9				
10	電力の測定			10				
11	線路電流の測定			11				
12	電圧計の測定範囲の拡大			12				
13	電流計の測定範囲の拡大			13				
14	計器の種類と記号			14				
15	前期期末試験			15				
授業方法 (授業の進め方)		教科書を基に、配布プリントや過去問題等も多く取り入れながら行う。						
到達目標		電気設備の各種検査方法や測定器の取り扱い方法が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準		・ 中間・期末試験：50% ・ 随時行う小テスト：20% ・ 授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・ 課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	保安法令		英文名	Electrical law and order				学科科目 番号	1-5
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	通年	前期： 2 時間（回数:15 回）		後期： 3 時間（回数:15 回）			授業時数	75 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト 改訂 18 版(電気書院)、第一種電気工事士筆記試験の徹底マスター 改訂 2 版（オーム社）、第一種電気工事士筆記試験模範回答集 2025 版（電気書院）								
担当者の 実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理								
【学修内容】科目のねらい（目的） 電気工事士として必要な、電気関係法令および電気施設の保安に関する法令について理解することを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	電気工事士の資格			1	電気工作物とは				
2	電気工事士の義務			2	電気工事の範囲				
3	電気事業法			3	一般用電気工作物とその規制				
4	電圧の種別			4	自家用電気工作物とその規制				
5	屋内電路の対地電圧			5	電気工事業法				
6	まとめ			6	電気工事業者の義務				
7	前期中間試験			7	後期中間試験				
8	電気法規の必要性			8	電気設備基準とその解釈				
9	電気保安関係法令の体系			9	まとめ				
10	電気保安関係法令の相互関係			10	電気用品安全法				
11	電気工作物の範囲と種類			11	電気用品の規制内容				
12	電気事業用電気工作物とその規制			12	電気工事士等の作業の範囲				
13	電気工事士法			13	電気工事士等の義務と罰則				
14	まとめ			14	電気工事士免状の交付				
15	前期期末試験			15	学年末試験				
授業方法 （授業の進め方）		電気関係法規・電気設備技術基準とその解釈及び電験 3 種受験テキストを取り入れながら行う。							
到達目標		電気工事士として必要な電気関係法令及び電気施設の保安に関する法令が理解できていること。							
成績評価の 方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。							

【令和 7 年度 シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（電気通信工学科）

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	情報処理概論		英文名	Introduction to Information Processing			学科科目 番号	1-6
担当者	三井 和一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期： 1 時間（回数：15 回）			授業時数	15 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 無線工学 B 改訂 3 版（オーム社）							
担当者 の実務 経験	家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者							
【学修内容】 科目のねらい（目的） コンピュータを効果的に利用するため、コンピュータの基本的な仕組みを学習し、ハードウェアやソフトウェアについての基礎を理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（ 前 期 ）				コマシラバス（ 後 期 ）				
1				1	コンピュータの概要			
2				2	2 進数・10 進数			
3				3	2 進数・4 進数・8 進数・16 進数			
4				4	文字コード			
5				5	情報・情報量・アナログとデジタル			
6				6	論理回路の基礎			
7				7	後期中間試験			
8				8	論理回路の応用			
9				9	コンピュータの仕組み			
10				10	仮想コンピュータ			
11				11	中央処理装置・記憶装置			
12				12	入出力装置			
13				13	オペレーティングシステム			
14				14	アプリケーションソフト			
15				15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		授業は、教科書をもとに講義形式で行うが、演習問題や第一級陸上無線技術士試験の過去問題等を取り入れ長ら知識の定着を行う。						
到達目標		・コンピュータの基本的な仕組みを理解して、論理演算や基数変換ができること。 ・第一級陸上無線技術士試験 無線工学 B が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準		・中間・学年末試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	データ通信		英文名	Data Transmission			学科科目 番号	1-7
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期： 1 時間（回数：15 回）				授業時数	15 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 無線工学 A 改訂 3 版（オーム社）							
担当者 の実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） デジタル通信の基本原理を知り、データ通信がコンピュータネットワークシステムにおいてどのように活用されているか。また、コンピュータ技術とネットワーク技術が結びつくことにより、地理的制限のない利用が可能ということを理解するのを目的とする。								
【授業計画】			コマシラバス（前期）			コマシラバス（後期）		
1			1	DSL 技術の概要				
2			2	PPPoE による通信システム				
3			3	IP 電話システム				
4			4	OSI 参照システム				
5			5	LAN 間接続装置				
6			6	イーサネット、無線、電磁波妨害、雷害対策				
7			7	後期中間試験				
8			8	データ伝送技術				
9			9	同期方式				
10			10	誤り制御方式				
11			11	IP ネットワーク				
12			12	情報セキュリティの脅威				
13			13	暗号化技術				
14			14	安全管理				
15			15	学年末試験				
授業方法 (授業の進め方)		授業は、教科書をもとに講義形式で行うが、演習問題や工事担任者の過去問題等を取り入れながら知識の定着を行う。						
到達目標		・コンピュータネットワークの O S I 階層における伝送路の基本的な仕組みと原理が理解できていること。 ・第一級陸上無線技術士試験 無線工学 A が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準		・中間・学年末試験：50% ・随時行う小テスト：20% ・授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電子回路		英文名	Electronic Circuit			学科科目 番号	1-8
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期： 2 時間（回数：15 回）				授業時数	30 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、一陸技無線従事者国家試験問題解答集（一般財団法人情報通信振興会）							
担当者 の実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 電子回路の基礎となる半導体を応用した回路を中心に学習し、第一級陸上無線技術士の資格取得を目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	半導体の原理、正孔、自由電子			
2				2	半導体と整流作用			
3				3	トランジスタの原理とトランジスタ回路			
4				4	直流増幅率、交流増幅率			
5				5	バイアス回路、種類と特徴			
6				6	電界効果トランジスタの原理、増幅回廊			
7				7	後期中間試験			
8				8	微分回路と積分回路			
9				9	OP アンプ、原理と計算			
10				10	第一級陸上無線技術士の問題と解説			
11				11	第一級陸上無線技術士の問題と解説			
12				12	第一級陸上無線技術士の問題と解説			
13				13	第一級陸上無線技術士の問題と解説			
14				14	第一級陸上無線技術士の問題と解説			
15				15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		電子回路を基に、演習問題や第一級陸上無線技術士の過去問題等を取り入れながら知識の定着を行う。						
到達目標		・半導体の特性を正孔や自由電子の動きから説明することができること。 ・第一級陸上無線技術士に該当する問題を解くことができること。						
成績評価の 方法と基準		・中間・学年末試験：50% ・随時行う小テスト：20% ・授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	無線工学		英文名	Radio Engineering				学科科目 番号	1-9
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期： 2 時間（回数:15 回）				授業時数	30 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 やさしく学ぶ 法規 改訂 3 版(オー ム社)								
担当者 の実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管 理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 携帯電話など移動通信システムの基本的な無線技術と、衛星放送や宇宙通信システムなどの超遠距離 通信についての基礎技術を学習し、これらのシステム実現のための統合技術や周辺技術などを理解する ことを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1				1	多重通信方式の概要				
2				2	変調				
3				3	送受信装置				
4				4	中継方式				
5				5	レーダ				
6				6	アンテナ				
7				7	後期中間試験				
8				8	電波伝搬				
9				9	電源、測定				
10				10	第一級陸技無線技術士の過去問題				
11				11	第一級陸技無線技術士の過去問題				
12				12	第一級陸技無線技術士の過去問題				
13				13	第一級陸技無線技術士の過去問題				
14				14	第一級陸技無線技術士の過去問題				
15				15	学年末試験				
授業方法 (授業の進め方)		授業は、教科書をもとに講義形式で行うが、演習問題や第一級陸上特殊無線技士の 過去問題等を取り入れながら知識の定着を行う。							
到達目標		・無線通信における基本的な技術を理解し、これらを使ったサービス・ビジネス事例 や問題点が理解できていること。 ・第一級陸上特殊無線技士の「工学」科目が理解できていること。							
成績評価の 方法と基準		・中間・学年末試験：50% ・随時行う小テスト：20% ・授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。							

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気通信法規		英文名	Telecommunications Laws and Regulations			学科科目 番号	1-10
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期： 1時間（回数:15回）			授業時数	15 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 やさしく学ぶ 法規 改訂 3 版(オー ム社)							
担当者 の実務 経験	三井 和一郎：家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管 理、および電気主任技術者 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 法に基づく秩序ある通信の運用を行うのに必要な知識を学ぶ。また、電気通信全般に関する常識的な 考え方を学ぶことを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	電気通信事業法及び施行規則			
2				2	電気通信設備、端末設備の接続			
3				3	工担者規則、認定等規則			
4				4	端末機器の技術基準適合認定			
5				5	端末設備等規則			
6				6	安全性等			
7				7	後期中間試験			
8				8	有線電気通信法規関連			
9				9	関連法規			
10				10	電波法の概要			
11				11	無線局			
12				12	無線設備			
13				13	無線従事者			
14				14	無線局の運用			
15				15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		授業は、教科書をもとに講義形式で行うが、演習問題や第一級陸上特殊無線技士の 過去問題等を取り入れながら知識の定着を行う。						
到達目標		・ 工事担任者の「法規」が理解できていること。 ・ 第一級陸上無線技術士の「法規」が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準		・ 中間・学年末試験：50% ・ 随時行う小テスト：20% ・ 授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・ 課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	施工方法		英文名	Construction methods				学科科目番号	2-1
担当者	生藤 佑城		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義	
開講期	通年	前期： 2 時間（回数：15 回）		後期： 2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、2025 年版 2 級電気工事施工管理技術検定試験 過去問題集(電気書院)、2 級電気工事施工管理技士 第一次検定テキスト 2025 年版(CIC 出版)								
担当者の実務 経験	電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 建設工事現場における照明設備工事、変電設備工事、発電設備工事、送配電線工事、構内電気設備工事、非常用電源設備工事、電車線工事、信号設備工事などの施工管理について理解することを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	設置場所と工事の種別 幹線と分岐回路 屋内配線の隔離距離 高圧屋内配線 管工事の施設 ダクト工事 <u>前期中間試験</u> ケーブル工事、地中電線路 電熱装置の施設 支線の張力 支線の必要条数 V 結線 高圧回路の遮断装置 高圧回路の開閉器 <u>前期期末試験</u>			1	短絡電流と遮断器容量 ①				
2				短絡電流と遮断器容量 ②					
3				高圧進相コンデンサ					
4				避雷器と電力ヒューズ					
5				保護継電器					
6				機器の絶縁耐力					
7				<u>後期中間試験</u>					
8				高圧機械器具の施設					
9				全体のまとめ					
10				架空電線路の施設					
11				地中電線路の施設					
12				高圧架空ケーブル					
13				自家用電気工作物の新增設					
14				適正電圧の維持					
15				<u>学年末試験</u>					
授業方法 (授業の進め方)		電気工事、電気関係法規及び 2 級電気工事施工管理技術検定テキストを基に、プリントや過去問題などを多く取り入れながら行う。							
到達目標		建設工事現場における照明設備工事、変電設備工事、発電設備工事、送配電線工事、行内電気設備工事、非常用電源設備工事、電車線工事、信号設備工事などの施工管理について理解できていること。							
成績評価の方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。							

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	配線設計		英文名	Electrical testing methods			学科科目番号	2-2
担当者	生藤 佑城、川本 博之		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期： 2 時間（回数：15 回）		後期： 2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、乙種 4 類危険物取扱者試験 2025 版(公論出版)、消防設備士 第 4 類 令和 7 年上巻/下巻(公論出版)、ドリルで学ぶ Jw_cad 第 4 版 （日経 BP 社）							
担当者の実務 経験	生藤 佑城：電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管 川本 博之：電設会社において電気工事							
【学修内容】科目のねらい（目的） 屋内電気配線を理解し、建築物や電気工作物に適した配線設計ができることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	屋内配線のシンボル①			1	漏電遮断機の設置①			
2	屋内配線のシンボル②			2	漏電遮断機の設置②			
3	複線図の書き方①			3	幹線の太さと許容電流①			
4	複線図の書き方②			4	幹線の太さと許容電流②			
5	配線条数①			5	幹線の太さと遮断器容量の求め方①			
6	配線条数②			6	幹線の太さと遮断器容量の求め方②			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	低圧引込線の施設①			8	絶縁電線・コードの許容電流①			
9	低圧引込線の施設②			9	全体のまとめ			
10	電路の接地工事①			10	絶縁電線・コードの許容電流②			
11	電路の接地工事②			11	過電流遮断器の特性①			
12	配線の太さと小勢力回路①			12	過電流遮断器の特性②			
13	配線の太さと小勢力回路②			13	分岐回路の種類①			
14	需要率・負荷率			14	分岐回路の種類②			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		2 級電気工事施工管理技術検定模範解答集や、電気工事士筆記試験受験テキストを使って進める。過去問題等も多く取り入れながら行う。						
到達目標		・屋内電気配線の設計ができること。 ・電気配線図が描けること。						
成績評価の方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電磁気学		英文名	Electromagnetism			学科科目 番号	2-3
担当者	三井 和一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	通年	前期： 2 時間（回数：15 回）		後期： 2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 無線工学 B[改訂 3 版]（オーム社）							
担当者 の実務 経験	家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者							
【学修内容】科目のねらい（目的） 電線やコイルに電流が流れると様々な磁気現象が現れる。磁気現象を皮切りに電場や磁場に関する色々な法則や計算方法を理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	磁石の性質と働き			1	交流回路とその性質			
2	電流の磁気作用			2	直列回路の性質			
3	鉄の磁化現象			3	並列回路の計算			
4	電磁力			4	交流の電力			
5	演習問題			5	記号法を用いた回路の計算			
6	まとめ			6	三相交流			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	電磁誘導			8	V 結線と三相平衡負荷			
9	インダクタンス			9	まとめ			
10	磁界の性質			10	ひずみ波交流の表現			
11	コンデンサ			11	ひずみ波交流の作用			
12	放電現象			12	過度現象の基礎			
13	正弦波交流の性質			13	過度状態と定常状態			
14	正弦波交流のベクトル表示			14	過度現象の解析例			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第 3 版を使ってプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。						
到達目標		・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。						
成績評価の 方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・随時行う小テスト：20％ ・授業態度、課題などへの取り組み等：30％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	ネットワーク工学		英文名	Network Engineerrig				学科科目 番号	2-4
担当者	三井 和一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義	
開講期	通年	前期：2 時間（回数：15 回）		後期：2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 無線工学 A[改訂 3 版]（オーム社）、 一陸技無線従事者国家試験問題解答集（一般財団法人情報通信振興会）								
担当者の実務 経験	家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電 気主任技術者								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 現在のネットワーク技術において、主流となっている TCP/IP の知識を学ぶことを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	ネットワークの進展概要			1	IP ルーティング				
2	電話ネットワーク			2	IPv6				
3	データ通信電話ネットワーク			3	広域ネットワーク				
4	インターネット			4	トランスポート層（TCP）				
5	アナログ信号のデジタル化			5	トランスポート層（UDP）				
6	ベースバンド伝送			6	アプリケーション層（DNS）				
7	前期中間試験			7	後期中間試験				
8	ブロードバンド伝送			8	アプリケーション層（DHCP）				
9	同期と非同期			9	アプリケーション層（SIP）				
10	ネットワークトポロジー			10	広域イーサネット				
11	プロトコルと階層化			11	IP-VPN				
12	ローカルエリアネットワーク			12	暗号化方式				
13	スイッチングハブ			13	IPsec				
14	IP ネットワーク			14	TSL/SSL				
15	前期期末試験			15	学年末試験				
授業方法 （授業の進め方）		教科書をもとに講義形式で行う。各種資格試験から問題を抽出しそれを解くことで 知識の定着を狙う。							
到達目標		・コンピュータネットワークの概念を理解できていること。 ・通信プロトコルの概要を理解し、情報セキュリティの重要性について理解する。							
成績評価の 方法と基準		・年間 4 回の中間・期末（学年末）試験：50％ ・授業態度、課題の取り組み等：50％ 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。							

【令和 7 年度 シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（電気通信工学科）

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	資格指導		英文名	Qualification Guidance			学科科目 番号	1-11
担当者	三井 和一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・講義
開講期	前期	前期： 6 時間（回数:15 回）		後期： 時間（回数： 回）		授業時数	90 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一種電気工事士筆記試験模範解答集 2025 年版（電気書院）、いちばんわかりやすい！電験三種 合格テキスト（成美堂出版）、2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、2025 年版 第二種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）							
担当者の実務 経験	家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者							
【学修内容】科目のねらい（目的） 第二種電気工事士、第一種電気工事士、第一級陸上特殊無線技士の資格取得の為の対策講座を行うことを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	第二種電気工事士筆記試験問題			1				
2	第二種電気工事士筆記試験問題			2				
3	第二種電気工事士筆記試験問題			3				
4	第二種電気工事士筆記試験問題			4				
5	第一種電気工事士筆記試験問題			5				
6	第一種電気工事士筆記試験問題			6				
7	前期中間試験			7				
8	第一種電気工事士筆記試験問題			8				
9	第一種電気工事士筆記試験問題			9				
10	一級陸上特殊無線技士試験問題			10				
11	一級陸上特殊無線技士試験問題			11				
12	一級陸上特殊無線技士試験問題			12				
13	一級陸上特殊無線技士試験問題			13				
14	一級陸上特殊無線技士試験問題			14				
15	前期期末試験			15				
授業方法 (授業の進め方)		各テキストの他、配布プリントや過去問題等も多く取り入れながら行う。						
到達目標		各資格取得に必要な各項目を理解し、国家試験に合格できること。						
成績評価の 方法と基準		・ 中間・期末試験：50% ・ 随時行う小テスト等：20% ・ 授業態度、課題などへの取り組み等：30% 以上 3 項目を総合し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅において配布プリントや過去問題等を解くよう心掛ける。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気工事実習 I A		英文名	Electrical Construction I A			学科科目 番号	1-12
担当者	藤井 弘志、田中 徹 川本 博之		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期： 4 時間（回数:15 回）		後期： 4 時間（回数:15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、2025 年版 第二種電気 工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、電気工事実技教科書 改訂 4 版（雇用問題研 究会）							
担当者の実務 経験	藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理 田中 徹：総合設備会社にて電気工事及び電気工事の施工管理 川本 博之：電設会社において電気工事							
【学修内容】科目のねらい（目的） 主として金属管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	より線の接続①			1	金属管工事①			
2	より線の接続②			2	金属管工事②			
3	トーチランプの使用法			3	金属管工事③			
4	はんだ付け（1）			4	金属管工事④			
5	はんだ付け（2）			5	金属管工事⑤			
6	金属管の切断			6	金属管工事⑥			
7	金属管のねじ切り			7	金属管工事⑦			
8	金属管の曲げ方			8	金属管工事⑧			
9	金属管の接続			9	金属管工事⑨			
10	薄鋼電線管とボックスの接続			10	金属管工事⑩			
11	アースボンドの取り方①			11	総合工事実習①			
12	ねじなし電線管とボックスの接続			12	総合工事実習②			
13	アースボンドの取り方②			13	総合工事実習③			
14	金属管の固定			14	総合工事実習④			
15	金属製可とう電線管の切断、管相互の接続タイムスイッチ回路			15	総合工事実習⑤			
授業方法 (授業の進め方)		電気工事実技教科書を使って基本的な接続方法から実際の配線工事までを行う。						
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備技術基準を遵守した配線工事が確実にできること。						
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70％ ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30％ 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気工事実習 IB		英文名	Electrical Construction IB			学科科目 番号	1-13
担当者	藤井 弘志、秋山 俊朗 川本 博之		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期： 4 時間（回数:15 回）		後期： 4 時間（回数:15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、2025 年版 第二種電気 工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、電気工事実技教科書 改訂 4 版（雇用問題研 究会）							
担当者の 実務 経験	藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理 秋山 俊朗：電設会社において電気工事 川本 博之：電設会社において電気工事							
【学修内容】科目のねらい（目的） 主としてケーブル工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の 安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	電線の終端接続①			1	ケーブル工事①			
2	電線の終端接続②			2	ケーブル工事②			
3	電線の終端接続③			3	ケーブル工事③			
4	ケーブルの接続①			4	ケーブル工事④			
5	ケーブルの接続②			5	ケーブル工事⑤			
6	ケーブルの接続③			6	ケーブル工事⑥			
7	ケーブルの固定			7	ケーブル工事⑦			
8	3 路スイッチ回路			8	ケーブル工事⑧			
9	4 路スイッチ回路			9	ケーブル工事⑨			
10	パイロットランプ回路			10	ケーブル工事⑩			
11	ホタルスイッチ回路			11	総合工事実習①			
12	自動点滅器回路			12	総合工事実習②			
13	端子台への接続			13	総合工事実習③			
14	メタルラス壁の貫通工事			14	総合工事実習④			
15	太い電線の取扱い			15	総合工事実習⑤			
授業方法 (授業の進め方)		電気工事実技教科書を使って基本的な接続方法から実際の配線工事までを行う。						
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備技術基準を遵守した配線工事が確実にできること。						
成績評価の 方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気工事实習 IC		英文名	Electrical Construction IC			学科科目番号	1-14
担当者	生藤 佑城、田中 徹		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期： 4 時間（回数:15 回）		後期： 4 時間（回数:15 回）			授業時数	120 時間
教材教具	2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、2025 年版 第二種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、電気工事实技教科書 改訂 4 版（雇用問題研究会）							
担当者の実務経験	生藤 佑城：電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理 田中 徹：総合設備会社にて電気工事及び電気工事の施工管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 主として合成樹脂管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	工具の取扱い			1	合成樹脂管工事①			
2	電線の取扱い			2	合成樹脂管工事②			
3	電線被覆のはぎ取り①			3	合成樹脂管工事③			
4	電線と端子の接続（輪巻き）			4	合成樹脂管工事④			
5	器具の取り付け①			5	合成樹脂管工事⑤			
6	器具の取り付け②			6	合成樹脂管工事⑥			
7	絶縁テープの巻き方			7	合成樹脂管工事⑦			
8	各種端子の接続			8	合成樹脂管工事⑧			
9	合成樹脂管の切断			9	合成樹脂管工事⑨			
10	合成樹脂管の曲げ方①			10	合成樹脂管工事⑩			
11	合成樹脂管の曲げ方②			11	総合工事实習①			
12	合成樹脂管の接続			12	総合工事实習②			
13	プルボックスの加工			13	総合工事实習③			
14	合成樹脂管とボックスとの接続			14	総合工事实習④			
15	呼び線による通線			15	総合工事实習⑤			
授業方法 (授業の進め方)		電気工事实技教科書を使って基本的な接続方法から実際の配線工事までを行う。						
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備技術基準を遵守した配線工事が確実にできること。						
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気工事実習 I D		英文名	Electrical Construction I D			学科科目番号	1-15
担当者	生藤 佑城、川本 博之 藤井 弘志		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数:15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、2025 年版 第二種電気工事士技能試験公開問題の合格解答（オーム社）、電気工事実技教科書 改訂 4 版（雇用問題研究会）							
担当者の実務 経験	生藤 佑城：電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管 川本 博之：電設会社において電気工事 藤井 弘志：電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理							
【学修内容】科目のねらい（目的） 主としてがいし引き工事及びP F 管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	リングスリーブによる接続			1	がいし引き工事①			
2	差し込み形コネクタによる接続			2	がいし引き工事②			
3	S 形スリーブによる接続			3	がいし引き工事③			
4	B 形スリーブによる接続			4	がいし引き工事④			
5	配線器具の取り付け①			5	がいし引き工事⑤			
6	配線器具の取り付け③			6	P F 管工事①			
7	配線器具の取り付け⑤			7	P F 管工事②			
8	バインド方法			8	P F 管工事③			
9	がいし引き配線①			9	P F 管工事④			
10	がいし引き配線②			10	P F 管工事⑤			
11	P F 管の切断			11	総合工事実習①			
12	P F 管の接続			12	総合工事実習②			
13	P F 管とボックスとの接続			13	総合工事実習③			
14	P F 管の固定			14	総合工事実習④			
15	合成樹脂線ぴ工事			15	総合工事実習⑤			
授業方法 (授業の進め方)		電気工事実技教科書を使って基本的な接続方法から実際の配線工事までを行う。						
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備技術基準を遵守した配線工事が確実にできること。						
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気工事实習ⅡA		英文名	Electrical ConstructionⅡA				学科科目番号	2-5
担当者	生藤 佑城、田中 徹 関藤 満、山本 隼也		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習	
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、電気工事实技教科書 改訂 4 版（雇用問題研究会）、企業持参品								
担当者の実務経験	生藤 佑城：電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理 田中 徹：総合設備会社にて電気工事及び電気工事の施工管理 関藤 満：電気工事に関わる分電盤、制御盤などの製造管理 山本 隼也：電気工事に関わる分電盤、制御盤などの製造管理								
【学修内容】科目のねらい（目的） 一年次に学習した配線・配管工事の基本をふまえ、実際の現場に即した専門性と応用力を身につけるとともに、電気設備基準を十分に理解した安全な工事ができることを目的とする。 また、株式会社徳山電機製作所より特別講師を招き、講師の指導により職業実践専門課程として、実践的な実習を行い、技術の習得を目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	金属製可とう電線管の切断、管相互の接続①			1	職業実践実習 2				
2	職業実践実習 1			2	引込口工事①				
3	金属製可とう電線管の切断、管相互の接続②			3	引込口工事②				
4	合成樹脂管の切断、接続①			4	照度の測定①				
5	合成樹脂管の切断、接続②			5	照度の測定②				
6	合成樹脂管び工事①			6	絶縁抵抗測定①				
7	合成樹脂管び工事②			7	絶縁抵抗測定②				
8	リモコン配線①			8	接地抵抗の測定①				
9	リモコン配線②			9	接地抵抗の測定②				
10	電動機工事①			10	卒業制作Ⅰ				
11	電動機工事②			11	卒業制作Ⅱ				
12	電動機工事③			12	卒業制作Ⅲ				
13	Y-Δ始動器回路①			13	卒業制作Ⅳ				
14	Y-Δ始動器回路②			14	職業実践実習 3				
15	Y-Δ始動器回路③			15	卒業制作Ⅴ				
授業方法 （授業の進め方）		・電気工事の基礎から応用まで、各種配線工事や測定方法を実際に行う。 ・企業から特別講師を招き、分電盤や制御盤について知識や技術を習得する。							
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備基準を遵守した配線、配管工事が確実にできること。 ・分電盤や制御盤の知識や技能が身についていること。							
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70％ ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30％ 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。							

【令和7年度 シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（電気通信工学科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気工事实習 II B		英文名	Electrical Construction II B			学科科目番号	2-6
担当者	生藤 佑城、秋山 俊朗		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、電気工事实技教科書 改訂 4 版（雇用問題研究会）							
担当者の実務 経験	生藤 佑城：電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理 秋山 俊朗：電設会社において電気工事							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 一年次に学習した配線・配管工事の基本をふまえ、実際の現場に即した専門性と応用力を身につけるとともに、電気設備基準を十分に理解した安全な工事ができることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	三相誘導電動機の直入れ運転回路①			1	テレビ・BSアンテナの取り付けと調整①			
2	三相誘導電動機の直入れ運転回路②			2	テレビ・BSアンテナの取り付けと調整②			
3	三相誘導電動機の正転逆転回路①			3	ガス溶接・アーク溶接の実習			
4	三相誘導電動機の正転逆転回路②			4	変圧器の極性試験と模擬絶縁耐力試験①			
5	回路計の使用法と分電盤電圧の測定法			5	変圧器の極性試験と模擬絶縁耐力試験②			
6	自動火災報知機の検知実習			6	配筋とCD・PF管によるスラブ配管①			
7	地絡遮断器と漏電火災警報器			7	配筋とCD・PF管によるスラブ配管②			
8	蛍光灯の交換・修理・保全			8	配筋とCD・PF管によるスラブ配管③			
9	計器用変成器のしくみと取扱いを学ぶ			9	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう①			
10	油圧式ベンダ、油圧圧着工具、レーザー水準器の取扱い①			10	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう②			
11	油圧式ベンダ、油圧圧着工具、レーザー水準器の取扱い②			11	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう③			
12	電力量計の標準結線の学習			12	高圧受電設備の機器の配置について学習する			
13	継電器総合動作試験			13	複雑な配線工事にトライしてみよう①			
14	高速切断機・振動ドリル・はつり・アンカ取付作業を学ぶ			14	複雑な配線工事にトライしてみよう②			
15	金属開閉器を使用した動力回路の製作			15	複雑な配線工事にトライしてみよう③			
授業方法 (授業の進め方)		電気工事の基礎から応用まで、各種配線工事や測定方法を実際に行う。						
到達目標		・各項目の作業が指示通りできること。 ・電気設備基準を遵守した配線、配管工事が確実にできること。						
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	電気電子実習		英文名	Electrical And Electronic Practical			学科科目番号	2-7
担当者	生藤 佑城、國府 拓治		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト							
担当者の 実務 経験	生藤 佑城：電気工事会社において施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理 國府 拓治：電子部品メーカーにて製品の開発・設計・CAD 等利用							
【学修内容】科目のねらい（目的） 各種の機械や計器、測定器などを使用し、工業に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に学習し、技術への興味関心を高め、意欲的な態度を身につけることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	導入、説明			1	C R フィルター回路の特性測定			
2	電流計、電圧計			2	R L C フィルター回路の特性測定			
3	電位降下法による抵抗の測定			3	バンドパス、ノッチフィルター回路の特性測定			
4	ホイートストンブリッジ			4	変圧器の特性測定			
5	万能ブリッジ			5	直流電源装置の出力抵抗測定			
6	単相電力の測定			6	分圧と平衡			
7	シンクロスコープによる波形観測			7	交流の分圧と電位差			
8	位相差の測定			8	交流ブリッジ			
9	変圧器の極性			9	コンデンサの測定			
10	合成抵抗			10	インダクタンス測定(1)			
11	単相半波整流回路			11	インダクタンス測定(2)			
12	R C 直列回路の特性測定			12	論理回路(組み合わせ)			
13	R L 直列回路の特性測定			13	トランジスタの静特性			
14	R L C 直列回路の特性測定			14	トランジスタのスイッチ動作			
15	R L C 並列回路の特性測定			15	トランジスタによるフリップフロップ			
授業方法 (授業の進め方)		電気通信工学科作成テキストに示した内容に従い、実習を行う。						
到達目標		・各種電気実験が指示通りできること。 ・各種電気実験に対して、意欲的な姿勢や安全に対する心構えができていること。						
成績評価の 方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	ネットワーク実習		英文名	Network Practical Work				学科科目 番号	2-8
担当者	國府 拓治		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習	
開講期	通年	前期：2 時間（回数：15 回）		後期：2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト								
担当者の 実務 経験	電子部品メーカーにて製品の開発・設計・CAD 等利用								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 電気通信技術者として理解しておくべきネットワーク技術を学習する。簡単なネットワーク環境を実現し P C 間通信を行うことで理解を深め、通信トラブルに対する原因調査と対策が出来る能力を養うことを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	OS の役割理解、PC 基本操作			1	ネットワークツールの理解(nslookup) IP アドレス確認				
2	コマンドによる操作：基本操作			2	ネットワークツールの理解(arp) MAC アドレス確認				
3	ファイルシステムの理解			3	TCP/IP プロトコルを使つての通信 (1)				
4	コマンドによる操作：ディレクトリ構造			4	TCP/IP プロトコルを使つての通信 (2)				
5	コマンドによる操作：ファイルの管理			5	TCP/IP プロトコルを使つての通信 (3)				
6	コマンドによる操作：プロセスとジョブの制御			6	UDP/IP プロトコルを使つての通信 (1)				
7	コンピュータのハードウェアと構成			7	UDP/IP プロトコルを使つての通信 (2)				
8	コンピュータとプログラムの基礎理論			8	UDP/IP プロトコルを使つての通信 (3)				
9	実習用ネットワークの構成理解			9	ネットワークツールの理解(Telnet) 遠隔操作				
10	ネットワークの種類理解及び通信プロトコルの理解			10	ネットワークツールの理解(FTP) ファイル転送				
11	ネットワークツールの理解(ping) 接続確認			11	ネットワークツールの理解(Wireshark 1) パケット情報				
12	ネットワークツールの理解(route print) 経路確認			12	ネットワークツールの理解(Wireshark 2) パケット情報				
13	ネットワークツールの理解(tracert) 経路確認			13	ネットワークツールの理解(Wireshark 3) パケット情報				
14	ネットワークツールの理解(netstat) ポート確認			14	ネットワークツールの理解(Wireshark 4) パケット情報				
15	ネットワークツールの理解(ipconfig) 設定情報確認			15	ネットワークツールの理解(Wireshark 5) パケット情報				
授業方法 (授業の進め方)		電気通信工学科作成テキストに示した内容に従い、実習を行う。							
到達目標		・コンピュータネットワークの概念を理解し、基礎的な実務ができる。 ・TCP/IP と UDP/IP を理解し、情報セキュリティの重要性について理解する。 ・ネットワーク状態を確認するコマンドの基本的な活用が出来る。							
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度：70% ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30% 以上 2 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。							

【令和7年度 シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名（電気通信工学科）

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	コンピュータ実習		英文名	Computer Training			学科科目 番号	2-9
担当者	寺見 まゆみ		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期： 4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数： 15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	今すぐ使えるかんたん Word&Excel 完全ガイドブック 困った 解決&便利技(技術評論社)							
担当者の実務 経験	アプリケーションソフトインストラクターとして従事							
【学修内容】 科目のねらい（目的） Word、Excel の基礎を学び、文書、表、グラフ等の作成ができることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	自己紹介，Word の概要と基本操作			1	Excel の概要と基本操作			
2	文字入力をマスターする			2	表の作成（データの入力・修正・移動・コピー）			
3	ビジネス文書の基本（送付状・案内状）			3	表の作成（列幅や行の高さ・行列の追加と削除）			
4	文書作成（書式設定）			4	表の作成（数式の入力・修正・コピー）			
5	文書作成（書式設定）			5	表の作成（関数の挿入）			
6	文書作成（調査書・計画書・レポート）			6	表の作成（書式設定）			
7	表を使った文書作成基本			7	グラフの作成（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ）			
8	表を使った文書作成（申請書・議事録）			8	グラフの作成（レイアウトの変更・デザインの変更）			
9	表を使った文書作成（調査報告書・設備表）			9	グラフの作成（グラフ要素の追加と編集）			
10	図形やテキストボックスを使った文書作成			10	グラフの作成（複合グラフ・スパークライン）			
11	図形やテキストボックスを使った文書作成			11	Excel 応用（関数応用）			
12	文書内に画像を挿入する			12	Excel 応用（条件付き書式・入力規則・ブックの保護）			
13	Word 応用（セクション・段組み・ページレイアウト）			13	Excel 応用（データベース機能・テーブル）			
14	Word 応用（置換・パスワード設定・校閲）			14	Excel 総合			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		与えられた練習課題を基に、文書、表、グラフ等の作成を行う。						
到達目標		Word、Excel を用いて書類、表、グラフ等の作成ができること。						
成績評価の方法と基準		・実習ごとの作業内容の完成度および期末（学年末）試験評価：70％ ・授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：30％ 以上2項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たっての留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	CAD 実習		英文名	Electric drafting			学科科目 番号	2-10
担当者	金平 和歌子		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目・実習
開講期	通年	前期： 4 時間（回数：15 回）		後期： 4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間
教材 教具	ドリルで学ぶ Jw_cad 第 4 版(日経 BP 社)							
担当者 の実務 経験	オフィス GOLD 代表取締役							
【学修内容】 科目のねらい（目的） C A D の基本的な作図方法、電気シンボルの作図、電気回路図、等が描けることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	ソフトのインストール、各種設定			1	各種機能の確認、練習課題			
2	基本操作の演習			2	課題演習①			
3	作成コマンドの演習①、練習問題			3	課題演習②			
4	作成コマンドの演習②、練習問題			4	課題演習③			
5	作成コマンドの演習③、練習問題			5	課題演習④			
6	作成コマンドの演習④、練習問題			6	課題演習⑤			
7	編集コマンドの演習①、練習問題			7	電気記号の作図①			
8	編集コマンドの演習②、練習問題			8	電気記号の作図②			
9	編集コマンドの演習③、練習問題			9	電気図面の作図①			
10	文字記入、文字編集			10	電気図面の作図②			
11	寸法記入、寸法設定			11	電気図面の作図③			
12	画層、属性変更、線種、色設定			12	電気図面の作図④			
13	応用機能の演習、練習課題			13	ファイル変換、印刷			
14	図面枠の作成			14	データ交換、加工編集			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		配布プリント等を示す課題を見て、正確に描写しながら作図作業を行う。						
到達目標		・ C A D の基本的な知識や操作が理解できていること。 ・ 課題練習や課題作品、そして配線図が指示通り描けること。						
成績評価の 方法と基準		・ 中間時期に授業で行う試験、期末（学年末）試験：20％ ・ 実習ごとの作業内容の完成度：60％ ・ 授業態度（関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等）：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・ 課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	ホームルーム		英文名	Home Room				学科科目 番号	1-16 2-10
担当者	三井 和一郎、生藤 佑城		実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	一般科目	
開講期	通年	前期： 1 時間（回数：15 回）		後期： 1 時間（回数：15 回）			授業時数	30 時間	
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 1 年生：岡山科学技術専門学校の学生としての心構え、クラス作り、成績と出欠の重要性、学校行事 2 年生：進路について、企業訪問、履歴書の書き方、就職試験、入社に備えて、卒業に備えて 詳しい内容については、ガイドブックにある、年間指導計画（HR）に準じて取り組む。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	自己紹介、個人面談			1	個人面談				
2	科技専の教育方針、目指す学科像			2	進路資料室における求人票検索方法について				
3	学生生活のしおりの諸規定			3	企業訪問のやり方の説明				
4	学科の目指す資格と受験指導			4	企業訪問時の注意とその後の対応について				
5	学生としての自覚と責任について			5	就職に必要な書類の揃え方と送付方法				
6	中間試験について、保護者会について			6	就職試験時の身だしなみについて				
7	夏期休暇中の過ごし方について			7	面接練習				
8	前期期末試験について			8	前期試験について				
9	前期活動の反省と後期の目標について			9	学校行事				
10	学校行事			10	個人面談				
11	個人面談			11	社会人としての心構え				
12	進路について			12	企業人としての考え方や心構え				
13	履歴書の書き方			13	企業でのコミュニケーションの必要性について				
14	企業説明会について			14	学年末試験について				
15	企業訪問のやり方等個別指導			15	卒業式について				
授業方法 （授業の進め方）		進路実現に向けた取り組みを行う。 入社試験に対応した教養と、ビジネスマナーを中心として指導する。							
到達目標		【学校行事について】 ① 学校行事に積極的に参加する。 ② 与えられた役割に責任を持って取り組む。 ③ 学校行事を通じてコミュニケーション能力を養う。 【就職活動について】 ① 企業訪問でのマナーを身に付ける。 ② 就職試験に必要な書類の書き方を身に付ける。 ③ 就職試験の取り組みを身に付ける。 【マナー】 ① 社会人としての心構えを身に付ける。 ② 企業人としての考え方や心構えを身に付ける。 ③ すべての取り組みに対して、報告書の提出の必要性を理解する。							
成績評価の 方法と基準		成績評価はしない。							
授業時間以外に 必要な学修		・ 企業に提出する書類を、完成させる取り組みをする。 ・ 企業訪問、就職試験を行った場合に速やかに報告書を書く。							
履修に当たって の留意点		各実施内容に対して、私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。							

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	ビジネス教養		英文名	Business Skills			学科科目 番号	1-17
担当者	三井 和一郎		実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	一般科目
開講期	通年	前期： 1 時間（回数：15 回）		後期： 1 時間（回数：15 回）			授業時数	30 時間
教材 教具	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集（ウィネット）、勝つための就職ガイド success（ウィネット）							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 《前期》社会人として必要とされる論理的文章の基礎を習得させ、履歴書作成の土台となる文書作成手順を理解させることを目的とする。 《後期》社会人となるための知識や態度を養うことを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	ガイダンス＋基礎テスト			1	人間はなぜ働かなければならないか 勤労観について			
2	プライベートと社会で求められる文書の違い －伝える相手のその目的－			2	職業について理解する 職業観について			
3	事実と意見を区別する 事実を思い出すトレーニング －ブレインストーミングの活用－			3	企業は学生に何を求めているか			
4	意見文の構成－事実＋意見の基本形－			4	自分自身の今日までの歩みについて			
5	意見文を書く			5	将来何をしたいのか。 そのために今必要なことは何か			
6	意見文を書く－採点と好事例の共有－			6	人生設計について・進路計画について			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	手紙文の基本形－基本ルールの確認－			8	学生生活と社会人生活の違い			
9	手紙文の基本形－形の確認と作成－			9	社会人としての心構え			
10	段落の役割を捉える			10	社会人として求められる資質			
11	段落の要旨を捉える			11	社会人としてふさわしい身だしなみ			
12	グラフや表から正しい情報を抜き出す			12	社会人としての指示の受け方、報告の仕方			
13	グラフや表から正しい情報を抜き出す			13	場所に応じた挨拶の仕方			
14	検定問題演習			14	社会人としての話の仕方・手紙の書き方			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		入社試験に対応した教養と、ビジネスマナーを中心として指導する。						
到達目標		【文書作成について】 ①文書を作成する際に、事実、意見を峻別することができること。 ②事実を根拠として自ら意見（考察）を作成することができること。 ③「事実と意見の 2 段落構成で報告書（レポート）を作成」することができること。 ④ブレインストーミングを使って、文書の材料となる事実や体験を収集することができること。 ⑤手紙文の基本ルールを理解していること。 【読解について】 段落の概念を理解。グラフや表を理解し、正しい情報を抜き出すことができること。 【マナー】 社会人として恥ずかしくない作法を身につける。						
成績評価の 方法と基準		《前期》（前期中間試験＋前期期末試験）/2×0.85＋出席点 15 点 《後期》（後期中間試験＋学年末試験）/2×0.85＋出席点 15 点						
授業時間以外に 必要な学修		・ 自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・ 課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
履修に当たって の留意点		授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。						

※授業の 1 単位時間は 45 分とする

科目名	一般教養		英文名	Liberal Arts			学科科目 番号	2-12
担当者	生藤 佑城		実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	一般科目
開講期	通年	前期： 1 時間（回数：15 回）		後期： 1 時間（回数：15 回）			授業時数	30 時間
教材 教具	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集（ウィネット）、勝つための就職ガイド success（ウィネット）							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 就職活動に向けた具体的な取り組みやその方法について理解することを目的とする。 社会人となるため考え方や心構えなどについて理解することを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	求人票の見方について			1	ボーリング大会について			
2	進路資料室における求人票検索方法について			2	内定先企業の報告と、今後の企業との対応について			
3	過去の受験報告書の見方と受験対策			3	個人面談			
4	企業訪問のやり方の説明			4	学園祭準備（その1）			
5	電話機を使って電話のかけ方のロールプレイング			5	学園祭準備（その2）			
6	企業訪問時の注意とその後の対応について			6	イベント等への積極的参加とチームワークの必要性、共同作業での注意事項			
7	前期中間試験			7	後期中間試験			
8	就職に必要な書類のそろえ方と送付方法			8	社会人としての心構えについて（その1）			
9	就職試験の時の身だしなみについて			9	社会人としての心構えについて（その2）			
10	面接練習①			10	冬休みの心得、内定企業への年賀状送付について			
11	面接練習②			11	卒業及び工事士認定について			
12	入社試験の体験者のクラスでの報告（その1）			12	企業でのコミュニケーションの必要性について			
13	入社試験の体験者のクラスでの報告（その2）			13	学年末試験結果の卒業への影響について			
14	前期試験について（受験に際しての注意等）			14	卒業式について			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）		入社試験に対応した教養と、ビジネスマナーを中心として指導する。 テキストやワークブック、問題集などを活用しながら基礎学力を身に付けさせる。						
到達目標		就職活動を容易に行うことができること。 社会人としてのマナーや心構えが身に付いていること。						
成績評価の 方法と基準		《前期》（前期中間試験＋前期期末試験）/2×0.85＋出席点 15 点 《後期》（後期中間試験＋学年末試験）/2×0.85＋出席点 15 点						
授業時間以外に 必要な学修		履歴書の作成、面接練習などをおこなう。						
履修に当たって の留意点		社会人となるための基礎基本となる事柄であるので、真剣に取り組むこと。						